

基本施策評価シート

基本施策最終評価
A

基本施策通し番号 14

基本施策 中部縦貫自動車道の整備促進
 構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	中部縦貫自動車道の整備促進	A
施策2	「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核となる施設の整備	A

成果指標

指標	内容	令和2年度 目標	令和2年度末 実績	単位	令和2年度の成果の検証
中部縦貫自動車道大野油坂道路の全線開通	全区間の1日も早い供用開始	大野～油坂間の 一部供用開始	清滝川橋、堂本橋、七板橋の橋台工事完了、荒島第1トンネルの貫通、上半原トンネルの掘削開始	-	<ul style="list-style-type: none"> 国の当初予算は286億6,700万円と昨年度に比べ76億6,700万円の増額となり、県内区間の予算では過去最高となったうえ、2月には108億5,000万円が追加補正され、総額395億1,700万円となった。 大野油坂道路の「大野インターチェンジから和泉インターチェンジ(仮称)」区間が令和4年度に開通する見通しとなった。 トンネル10本のうち7本のトンネル掘削が進み、うち荒島第1トンネルが貫通した。また、清滝川橋や堂本橋の橋台工事が完成したほか、真名川橋の橋脚・橋台工事が進められるなど事業が着実に進捗した。
「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」における核となる施設の整備	重点道の駅「(仮称)結の故郷」の整備	供用開始	土木・建築工事完了	-	<ul style="list-style-type: none"> 工期内に土木・建築工事を完了した。 施設設置条例の制定及び指定管理者の選定などを行い、開駅に向け万全の準備を行った。 国土交通省の「道の駅」の登録を完了した。

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> 大野市にとって中部縦貫自動車道は、広域交通の円滑化や文化・観光を生かした地域振興や産業経済の発展、地震など災害時の緊急輸送・救急医療活動の支援、冬季における安全で安心な交通の確保のために真に必要な道路である。 越前おおのまるごと道の駅ビジョンの核となる道の駅「(仮称)結の故郷」は、越前おおのの魅力の発信や、大規模災害時に後方支援を行う機能を備えた施設として、平成26年度に国の「重点道の駅」に選定された。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 永平寺大野道路の1日も早い全線開通を目指すとともに、大野油坂道路の早期完成に向けた取り組みを進め、中部縦貫自動車道を全線開通させることが必要である。 中部縦貫自動車道の全線開通を見据え、重点道の駅「(仮称)結の故郷」が地域活性化の拠点となるよう施設整備やシステムづくりを進めていく必要がある。

社会情勢・市民ニーズの変化

市民が待ちわびた永平寺大野道路が平成29年7月に全線開通した。残る大野油坂道路については、令和2年4月に大野油坂道路の「大野インターチェンジから和泉インターチェンジ(仮称)」区間が令和4年度に開通見通しであることが国から公表された。今後、大野油坂道路が全線開通することで高速交通ネットワークが形成され、北陸圏と中京圏、関東圏との交流や企業誘致による雇用の創出等地域経済等の活性化を期待している。
 また、大野油坂道路の開通効果として期待される、交流人口や物流の拡大などの大きなチャンスを最大限生かし、地域経済振興の核として、「稼ぐ力」につながる施設と位置付ける『道の駅「越前おおの 荒島の郷」』に期待する市民の声は大きい。

現在の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> 中部縦貫自動車道永平寺大野道路が平成29年7月に全線開通した。残る大野油坂道路の整備促進を図っている。 指定管理者やモンベル等と協議し、施設の機能充実を図るとともに管理しやすい施設となるよう整備工事を進めた。 直売所で販売する農林産物等を安定的に供給し、また魅力ある商品ラインナップの充実を図るため、産直の会及び県、JA、商工会議所等の支援組織との連携による研修会等の開催や商品づくりへの支援により、産直の会会員の知識及び技術の向上等を図っている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 中部縦貫自動車道大野油坂道路の1日も早い全線開通のため、今後も継続した国の予算確保が課題である。 開駅に向け、産直の会会員の具体的な商品づくり・商品開発への取り組みを後押しするため、より充実した支援策が必要である。

基本施策の「成果」

成果	<ul style="list-style-type: none"> 当初予算は286億6,700万円と昨年度に比べ76億6,700万円の増額となり、県内区間の予算では過去最高となったうえ、2月には108億5,000万円が追加補正され、総額395億1,700万円となった。 これまでの中部縦貫自動車道大野油坂道路の早期開通に向けた関係機関等への要望活動などにより、「大野インターチェンジから和泉インターチェンジ(仮称)」区間の19.5キロメートルが令和4年度に開通する見通しとなり、全線開通に向け大きく前進した。 トンネル10本のうち7本のトンネル掘削が進み、うち荒島第1トンネルが貫通、また、清滝川橋や堂本橋の橋台工事が完成したほか、真名川橋の橋脚・橋台工事が進められるなど事業が着実に進展している。 大野油坂道路の開通効果として期待される、交流人口や物流の拡大などの大きなチャンスを最大限生かし、地域経済振興の核として、「稼ぐ力」につながる施設と位置付ける『道の駅「越前おおの 荒島の郷」』を整備した。 商品づくり、商品開発を後押しし、特産品を使用した商品など魅力の高い土産品を開発することができた。
----	---

改善点

- 中部縦貫自動車道の整備促進については、大野油坂道路の1日も早い全線開通に向けて、安定的に必要な財源を確保するよう国に対して強く働きかける。
- 令和3年4月22日の開駅に向け、万全の準備を進める。
- 産直の会会員の知識及び技術の向上等への支援を継続するとともに、商品づくり・商品開発を促進する。
- 広域災害時の拠点施設として機能するよう県と協議し、手続きを進めている「防災道の駅」の登録を目指す。